

## はじめに～本企画の背景・趣旨

一昨年7月、「ジェンダー論」を担当されている瀬地山角教授のご厚意により、先生の最終講義の最後15分で、さつき会創設の経緯や、長く4大卒女子の就職が大変だった時代があり、東大卒の女性を中心となって男女雇用機会均等法が作られたこと等をお話させていただきました。女子学生はもちろん、男子学生も高い関心を示し、私たちの話に耳を傾けてくれました。

このことに勇気づけられた私たちは、男女共同参画社会は与えられるものではなく、自分たちで作っていくもの、という先輩たちの思いを後輩たちに伝えていくためにも、東大の女子学生が「希少種」だった時代の先輩方や、各界で女性登用に門戸を開いたパイオニアの方々の生の声を聞いていただく機会を提供したいと思い、本シンポジウムを発案させていただきました。

折しも、今年2016年は東京大学に女子学生が入学してから70年目の年であり、1961年6月にさつき会が先輩諸姉のご尽力により設立されて55年目の年であることから、本シンポジウムを55周年記念事業と位置付けることにいたしました。

本シンポジウムの開催にあたって、東京大学や女子卒業生や女子在校生だけでなく、東京銀杏会や神奈川銀杏会などの地域同窓会や、大学公認学生団体ドリムネットの学生さんたちにもお力添えをいただきました。この場を借りて、改めてお礼を申し上げます。

さつき会サロン・ガイダンス委員会一同

# 本シンポジウムの概要

- テーマ:君の後ろに道はできた～豊かな男女共同参画のために
- 開催日時: 2016年6月11日(土)午後1時半～4時
- 開催場所: 東京大学駒場キャンパス内 21KOMSEE 大ホール  
[http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam02\\_01\\_55\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam02_01_55_j.html)
- 当日の進行: 司会:山口晴香(学生)、小島有理(さつき会幹事)
  - 13:30～ 降旗千恵さつき会代表幹事による開会挨拶
  - 13:40～ パネリストによるお話(15分ずつ)
  - 15:00～ 会場の学生との意見交換
  - 15:50～ 閉会挨拶:中西彩子(学生)
- 主催者: さつき会と次の女子学生有志6名
  - 中西彩子(工学部計数工学科システム情報工学コース4年)
  - 山口晴香(理学部生物学科4年)
  - 佐藤夢木(経済学部経済学科3年)
  - 菅野美結(経済学部経済学科3年)
  - 福田雛子(経済学部経営学科3年)
  - 菊池愛美(文科I類2年)
- 後援: 東京大学 男女共同参画室

# パネリストのご紹介

## 遠山敦子(とおやま あつこ)様

元文部科学大臣。昭和37年東京大学法学部卒業。大学卒業と文部省に入省。つねに女性初のタイトルの下に、中学校課長など4課長を努め、その後、文化部長、文化庁次長、教育助成局長、高等教育局長を経て、文化庁長官を歴任。平成8年には駐トルコ共和国大使、そして帰国後、平成12年に国立西洋美術館館長就任。平成13年4月からは小泉内閣で民間から文部科学大臣として入閣。平成17年4月より、財団法人新国立劇場運営財団理事長に就任、平成23年3月末退任。財団法人松下教育研究財団(現公益財団法人パナソニック教育財団)理事長として、「こころを育む総合フォーラム」を立ち上げ、平成19年1月には提言を発表。現在、公益財団法人トヨタ財団理事長、平成19年より財団法人日本いけばな芸術協会会長に就任。

### 事前インタビュー

文部省初の女性キャリアで、仕事ができる女性キャリアとして認められるために、異動先でまずなされたことを、シンポジウムの当日にお話いただきます。遠山さんが入学された当時は、文科Ⅰ類(今の文科Ⅰ類と文科Ⅱ類)の入学者800名中女子学生は遠山さんお一人だったそうで、そんな遠山さんに積極的にアタックされたのが、理科Ⅰ類におられたご主人だったとのこと。ご家庭での男女共同参画についてもお話を伺いたいと思っています。「社会の役に立つ」というぶれない軸のもと、遠山さんが歩んできた半生についてお聞きします。

菊池愛美(文科Ⅰ類2年)



# パネリストのご紹介

## 高橋真理子(たかはし まりこ)様

朝日新聞社勤務、科学ジャーナリスト。1979年  
東京大学理学部物理学科卒  
大学卒業後朝日新聞社に入社、「科学朝日」編  
集部員や論説委員(科学技術、医療担当)、科  
学部次長、科学エディター(部長)などを務める。  
著書に『最新 子宮頸がん予防——ワクチンと  
検診の正しい受け方』、共著書に『村山さん、宇  
宙はどこまでわかったんですか?』『独創技術た  
ちの苦闘』『生かされなかった教訓—巨大地震  
が原発を襲った』など、訳書に『ノーベル賞を  
獲った男』(共訳)、『量子力学の基本原理解  
常識と相容れないのか』など。



### 事前インタビュー

最初に勤務した岐阜支局では初の女性記者で、配属当初は周囲が自分をどう扱っていいか当惑されたそうです。新人が誰もが経験するサツ回りでは意外に可愛がってもらえたり、唯一不便だったのが女子トイレで、1階になくて2階に行かなくてはならなかったといったお話を素敵な笑顔で語ってくださいました。本社勤務になって携われたという組合活動のお話がとても印象的でした。組合活動によって女性が働きやすい環境が整えられ、さらにマスコミという性質上、社会全体への影響も非常に大きく、うねりのように広がっていったそうです。働く女性の立場や権利が現在のように確立されるまでには、先人一人一人の活動の積み重ねがあったということを実感することができました。シンポジウム当日は、こうした取り組みを中心にお話を伺う予定です。

佐藤夢木(経済学部経済学科3年)

# パネリストのご紹介

## 大塚聡子(おおつか あきこ)様

NEC 宇宙システム事業部 プロジェクト推進部 エキスパートエンジニア。1985年工学部卒。

大学卒業と同時に一貫して宇宙開発関連事業に携わる。「宇宙を人が行く場所にしたい」との夢の下、宇宙空間で働くロボットアームの開発に携わって約30年。「ロボットアームの母」と称され、宇宙航空研究開発機構 (JAXA) が開発した日本の宇宙実験棟「きぼう」などで採用されている日本独自のアームの設計開発、宇宙飛行士の訓練に注力し、日本さらに世界の宇宙戦略に貢献を続けている。プライベートでも宇宙に関わり、宇宙飛行士の山崎直子さんらと宇宙航空男女参画活動「宙女(そらじょ)」にも注力されている。

### 事前インタビュー

大塚さんは、学生時代はスポーツ愛好会の女子部長としても活躍。研究室では、金属表面から発生する微弱な電子線を計測する研究をしていて、ネオンなどからのノイズの影響を最小限に抑えるため、実験開始はいつも夕方。真夜中に正門を乗り越えコンビニに買い出しに行っていたそうです。

大塚さんは、女性は高い適応能力が備わっていると指摘します。「完璧なロールモデルとしてではなく、失敗から軌道修正を繰り返してきた人間として語りたい」とおっしゃる大塚さんに、今、学生の私たちに伝えたいことをシンポジウム当日に伺いたいと思います。

山口晴香(理学部生物学科4年)



# パネリストのご紹介

## 中野香織(なかの かおり)様

エッセイスト/服飾史家。1987年教養学部卒。東京大学大学院博士課程単位取得満期退学、ケンブリッジ大学客員研究員を経て文筆業、2008年より明治大学国際日本学部特任教授。専門はファッション文化史、ダンディズム史、イギリス文化史。過去2000年の男女ファッション史から最新モード事情まで研究・執筆・レクチャーをおこなっている。著書として『モードとエロスと資本』(集英社新書)、『ダンディズムの系譜 男が憧れた男たち』(新潮選書)、『愛されるモード』(中央公論新社)ほか多数。監訳『シャネル、革命の秘密』(ディスカヴァー・トゥエンティワン)ほか翻訳も手掛ける。『英和ファッション用語辞典』(研究社)監修。新聞・雑誌・ウェブでの連載記事多数。新刊に『紳士の名品50』(小学館)。



### 事前インタビュー

服飾史家である中野さんは、修士課程時代にイギリス文化とスーツの関係について研究を始め、現在は執筆活動や講演、大学の講義に大忙し。当初はファッションのアカデミック性を否定されることも多かったそうですが、幼い頃から培ってきた文才を武器にチャンスを見つけては能力を発揮し、今では新しい分野の開拓者として注目を浴びています。中野さんによると、人生の岐路で迷ったときに選択の基準にしてきたのは「どちらが安泰か」ではなく「どちらが楽しいか」。ご多忙の中お越しいただいたインタビューでは、素敵な笑顔と満ち溢れるパワーに私たちが元気をいただいってしまうほどでした。

中西彩子(工学部計数工学科4年)

# さつき会代表幹事の開会ご挨拶

みなさま こんにちは。今日はようこそおいで下さいました。ご参加ありがとうございます。東大女子学生同窓会さつき会代表幹事の降旗が開会の挨拶をさせていただきます。

本シンポジウムに関しましては、東大男女共同参画室担当理事で副学長の南風原先生を初め、東大からご支援をいただきましてありがとうございます。南風原先生は祝辞をお寄せくださいました。みなさまに配布しましたので、是非お読みください。また教養学部でジェンダー論を担当していらっしゃる瀬地山先生にも大変お世話になりましてありがとうございます。今日は、女子卒業生パネリストを、行政・政治分野、言論分野、工学分野、文化服飾分野からお迎えすることができました。ご参加ありがとうございます。各分野での活躍を語っていただきます。また現役の学生さんたちも企画段階からコラボレーションできたことも大きな収穫です。協力ありがとうございます。

さて、東大は1877年、明治10年の創立で今年は139年になります。女子学生が初めて入学したのは1946年です。1945年に戦争に負けて、新しい教育制度が導入されて、初めて女子学生が入学しました。現在も20%弱に留まっています。今後日本は人口減少期に入り、女性も社会でのますますの活躍が期待されています。

東大女子学生同窓会さつき会は先輩方によって1961年に創立されました。今年は55周年にあたり、この記念シンポジウムが企画されました。さつき会では同窓生の親睦を図るだけでなく、東大で女子学生を増やす運動に賛同して、地方からの女子学生を増やそうと、2013年からさつき会が主導して給付型(返す必要のない)を始めました。初めはさつき会会員の拠出で始めましたが、東大基金の応援で私たちの趣旨に賛同してくださる外部の方もご寄付くださるようになり、今年は7人の奨学生が誕生しました。1年生も応募できますので、さつき会のホームページをご覧ください。

それでは、パネリストのみなさま、ご講演をよろしくお願いいたします。以上開会のご挨拶とさせていただきます。

第55期代表幹事 降旗千恵(1965年理学部卒)

# 東京大学からのご祝辞

このたび、さつき会が創立 55周年をお迎えになり、本日、東京大学に在学する皆様にこのようなシンポジウムが盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

また、本日パネラーとして御登壇いただける遠山敦子様、高橋真理子様、大塚聡子様、中野香織様には、御多忙の中お越しいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

東京大学にはじめて女子学生が入学した1946年には、女子学生は19名、当時の全入学者のわずか2.1%でした。その後70年が経過し、現在、女子の学部学生比率は、20%弱で推移しています。残念ながら私たちの期待する水準には至っていません。しかし、日本が今後世界に貢献していくために女性の活躍は不可欠です。次世代を担う優秀な女性の人材をより多く輩出することは、東京大学の社会的使命です。

東京大学に在学したことのある女性、及び女子在学生によって構成されるさつき会は、東京大学を支えるかけがえのない同窓会組織と言えます。たとえば、2013年度からスタートした「さつき会奨学金」制度は、地方女子生徒の東京大学への進学を後押しするための制度であり、一人でも多くの優秀な女子生徒に学びの支援を提供するという大きな役割を果たしています。また、東京大学で学ぶ皆様が、在学中はもちろん、卒業後も豊かな協働関係を生み出し育む場として、日々ご貢献いただいているところです。

そのさつき会が女子学生有志の方々とともに主催する今回のシンポジウムは、ご出席の皆様にとって、東京大学の男女共同参画のこれまでを知り、これからを考える素晴らしい機会となるでしょう。そして、願うらくは、この場にお集まりいただいた皆様が、今日の出会いを通して相互の学びや協働関係を深め、世界の新たな価値創造の中核になっていただけることを期待します。さつき会のご発展と皆様方のますますのご健勝・ご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

東京大学理事・副学長 南風原 朝和

# 瀬地山角教授のご挨拶

駒場で「ジェンダー論」講義を担当される瀬地山角先生からもご挨拶を頂きました。瀬地山先生には、今回のシンポジウムのきっかけをいただき、また、開催にあたり多大なご支援もいただきました。この場を借りてお礼を申し上げます。

さつき会の経緯を伺っていて、1960年に大学を卒業した私の母が、京大の経済学部で学年唯一の女子学生だった時の話を思い出しました。

私がこの場にいる理由を説明すると、1999年に男女共同参画社会基本法が施行されたおり、当時の古田学部長が同法の教養学部での取り組みとして、学内の保育所の建て直しと、理系学生を含めた「ジェンダー論(講義)の開設」を掲げました。私はこの双方に関わることとなり、2000年代半ばからジェンダー論の担当教員となりました。

この「ジェンダー論」は幸い履修者がとても多く最近では500人強、4月は大教室でも立ち見になります。しかも女子学生比率が約4割と高く、おそらく東大で一番女子学生の多い講義です。これは健康診断を除けば、おそらく東大の女子学生が一番集中している空間ではないかと思われ、より多くの東大女子学生に対して効果的なマーケティングを行うにはうってつけの場です。

それを活用して頂いて、昨年7月の講義で、さつき会や東大卒女性の苦労や努力について、会の担当の方に、短くご紹介をいただきました。その時の手ごたえをもとに、このシンポジウムが企画されたということで大変うれしく思っています。

★瀬地山先生は“東大で一番面白い授業”としてマスコミでも紹介される等、東大生に人気の先生です。先生のプロフィールについては、先生の研究室のホームページ<http://homepage3.nifty.com/sechy/> をご覧ください。

# 各パネリストのお話のエッセンス

## 遠山敦子様

現文部科学省で、長年にわたってパイオニアとしてキャリアを積んでこられたご経験をもとに現役生への熱いエールをお送りいただきました。

前例のないことに何かヒントが隠されているかもしれないこと、職場での男女差別がまだ残っていた当時でも、本当にしっかりした男性こそ公平な目で評価してくれたこと、社会のためにという強い信念をもって生きること、何事も知力、感性、体力をもって全力投球すること、そして支え合うことのできる素敵な家族を持つことの大切さなど。

### 現役生へのメッセージ

「自分に自信を、日本に誇りをもって、ためらわずに挑戦せよ」



# 各パネリストのお話のエッセンス

## 大塚聡子様

ロボットアーム宇開発を始め、宇宙業界を支えてきたお話。

就職活動中には「うちは女性エンジニアを採らない」と言われたこともあるほど、女性エンジニアはなじみのない存在だったが、近年はNECの中でも女性を活躍させる取り組みがなされている。実際に職場で女性を対象に実施したアンケートでは、出産がネックになって仕事が続けにくいことがあるという声、逆に宇宙部門初の女性として得をしたという声も聞かれた。

長期プロジェクトの多い部門にいるため、家庭との両立が難しいのも問題。女性に特別な配慮をわざわざ銘打たなくても良い社会が一番の理想。

周りのできすぎたロールモデルばかり追い求めるだけでなく、自分をさらけ出し、自分たちの道を切り開いて欲しい。

座右の銘は「明けない夜はない」。



# 各パネリストのお話のエッセンス

## 高橋真理子様

大学卒業後、朝日新聞に入社。当時、女性記者はめずらしく、自身の記者としての活動自体が記事になったこともありました。

入社10年目、朝日新聞労働組合の「青年婦人部」を分割して「婦人部」(発足時は「女性部」と命名)を独立させる改革に当たったものの、男性と同等の権利を勝ち取ることと、当時女性に認められていた優遇制度(泊まり勤務の免除、生理休暇など)を手放すこととの葛藤も大きかったといいます。

現在では完全に男女平等となり、昔は考えられなかった女性の海外特派員も今は当たり前。女性だからできないというポストはなくなった一方、日本では子育てしやすい社会をまだ築けておらず、父親の子育て参加もまだまだです。

## 若い人へのメッセージ

理想の環境は待っていても訪れないので、まずは身近なところから自分たちで変えていこう。



# 各パネリストのお話のエッセンス

## 中野香織様

先に講演された3名の方々のように、会社に入ってキャリアを積んできたわけではないものの、多くの人から支持され毎日講演や執筆活動で大忙し。その発端となったのは、大学2年生の時にメキシコ旅行レポーターに“チャンスの神様”を逃さず応募したこと。これ以来、30年以上執筆の依頼が途切れていない。

大学時代、修士論文のテーマに選んだ「ダンディとジェントルマン」は最初アカデミック性を否定されることが多かったが、後に仕事を重ねて行くにつれ「前例がないことは幸運である」ことを実感している。誰もやっていない分野は宝の山であり、皆さんも是非ラッキーと思って飛び込んで欲しい。

講演終盤には、中野さん自身が切り開いたファッション学について、10か条にまとめてわかりやすく教授していただきました。関心のある方は。。。



# パネリストと会場との質疑応答

Q 今、もし東京大学を卒業したらどのようなキャリアパスを選ばれますか。

遠山様: 4,5ヶ国語を勉強し、グローバルな世界で活躍したいと思う。人類や地球の将来に役立つような仕事をしたい。

Q 在学中、どの程度具体的な将来像を描いていらっしゃいましたか。

中野様: 今でも、2年後何しているかは分からない。目の前の仕事に全力で取り組み、その仕事をくださった方を120%喜ばせようとすることの連続。それが次の仕事につながる。

Q 社会で活躍されている女性が増えた今日、女性が遭遇する困難は以前と比べどのように変わってきているのでしょうか。

高橋様: 職場は男女平等になってきたが、子育てとの両立は解けない難問として残っている。例えば、幼い子を抱えたままで海外特派員はできない。以前はそもそも女性は海外特派員はできなかったのだが、現在では制度上はできる。したがって、よりシビアな決断を迫られているのではないか。もちろん、女性が主な稼ぎ手となり、男性に子どもの面倒を見てもらうという前例、選択もある。

大塚様: 結婚や子育てをしながら仕事をしているという先輩が多くいる中、それが「モデル」として課せられ、本来結婚や子育てはしてもしなくても自由であるのだが、周囲、特に男性からの圧力を感じ「しなくては」と思ってしまう人もいるのでは。

# パネリストと会場との質疑応答

Q お仕事で活躍されながら子育てをなさったご体験や、子育てにおける男女共同参画についてお尋ねしたいです。

遠山様: 当時はなかなか子育ては難しくて、自分自身でできることは可能な限りやったが、母親と一緒に住んでくれた。また、パートナーもとても協力的だった。現在は政策的にもだいぶ変わったと思う。それでも、日本は個人的な努力に任せすぎ。スウェーデンに行った時は、カップルが二人乗りの乳母車を押して堂々と歩いていて、周りがそれを迎え入れているのが印象的だった。公的な交通機関も無料で、レストランなどに子どもが来ても子ども用の椅子がさっと用意される。各国では、社会的にそこまで進んでいる。日本も努力して、未来のため社会を変えていくべき。

大塚様: 私の80代の両親は幸い健在だが、女性は育児に加えて介護の心配もあると思う。

自分が子育てする時は両親に頼ったり、ベビーシッターを雇ったりしたので、アドバイスとしては「使えるものは何でも使え」と言いたい。自分の娘はありがたいことに健康だったが、同僚を見ていると、(子どもが体調を崩し)職場に呼び出しの電話がよくかかってきて帰るうちに、仕事を辞めざるを得なかった人もいる。自分も、もし同じ状況であれば仕事を辞めていたかもしれない。相手は生き物であり、取り返しのないことになった同僚も見えてきたので、親であれば、自分として後悔をしない子育てをしてほしい。また、日本の社会が、辞めざるをえなかった人を再び受け入れる体制を作るべきだと思う。

# パネリストと会場との質疑応答

Q 困難なことがあっても、高い視座を持ち続けるために心がけていることはありますか。

高橋様: 高い視座は、無理に持つ必要はないのでは。ただし、社会を変えていくためには多くの人の力が必要で、人を集めるためには納得、共感してもらえらるような理念がなくてはならないと思う。

Q 男性に対するリクエストや、政治にどういう貢献を求めることが考えられますか。

遠山様: 男性も女性も同じ人間どうし、励ましあったり、仕事の上での関係を持ちながら力強く歩んでいく社会にすべき。女性が家庭内で困っていることに関して、自分も主体であるという認識で喜んで協力してほしい。日本の政治、経済界にはやるべきことがたくさんある。女性自身がきちんと仕事をしていくという意識を持つのも大事だが、日本のジェンダーギャップ指数は世界で101位であり、歴史・慣習・社会の仕組みのせいで、未だに女性が働く、政治家・研究者・管理職になるのは難しい状況。できるだけバリアーを低くしていく努力が必要。

中野様: 女性が主体となり、男性のプライドをくすぐるようにしなければいけないかもしれない。うまく持ち上げて、協力してもらったらすごく喜ぶようにすると、男性はとても協力してくれるようになる。ぜひ試してみてください。

高橋様: 「男はプライドの生きものだから」という本もあるくらい。それを読んで目から鱗が落ちた。

# 当日の写真



# シンポジウムを終えて

駒場でジェンダー論の講義を担当されている瀬地山先生のお話に触発されて、このシンポジウムを思い立ったのが一昨年(2015年)の7月のことでした。企画案を持って昨年夏に、東大初の女子副学長に就任された久留島典子先生をお訪ねし、全面的なご支援を頂けたこと、そして、秋のホームカミングデーで遠山先輩に偶然お会いしパネリストを厚かましくお願いしたところ、即ご快諾いただけたことで、開催に向けて弾みがつきました。

第一線でご活躍中の、それも超ご多忙な先輩後輩の方々にパネリストをお願いし、シンポジウム当日だけでなく、事前のインタビューにもご協力いただきました。この場を借りて、改めてお礼を申し上げます。これだけのパネリストに勢ぞろいいただくことはそうそうないことと思います。これも、さつき会の55年の歴史のお陰です。

今回のシンポジウムでは企画段階から在学生に参加いただくことにしました。さつき会奨学生2名の声かけで集まってくれた6名の学生さんたちには、講義の合間をぬって事前インタビューやPRに協力いただきました。彼女たちのしなやかさと聡明さに触れ、東大女子ってやはり凄い！と改めて思いました。残念だったのは、土曜日開催のため学生の参加が今一つであったことと、公開に切り替える判断が遅れてしまったことです。「もっと多くの人に聞いてほしい、素晴らしい内容だった」と参加された方々からお声かけいただきました。この報告書を通じて、本シンポジウムのエッセンスを少しでもお伝えできたらと願っております。

本シンポジウムの開催にあたり、多くの方々からご支援をいただきました。東京銀杏会や神奈川銀杏会のOBの方々にもご来場いただき、文字通りの男女共同参画のシンポジウムを実現することができたことは、さつき会にとっても新しい一歩だったと思います。そして、東京大学の教職員の皆様には本当にお世話になりました。ありがとうございました。

最後に、このシンポジウムの開催に向けて一緒に頑張ってくださったさつき会の皆様、お疲れ様でした。さつき会そして東京大学の男女共同参画の歩みの中に、小さな一歩かもしれませんが、確かに足跡を残すことができたのではないのでしょうか。この一歩が次の一歩に繋がることを期待しています。

1984年教育学部卒 永沢裕美子

# シンポジウムを終えて

事前インタビュー、シンポジウム当日、そして打ち上げに至るまで、4名の素敵な講師の方々の近くでお話を伺えたのは私にとってかけがえのない時間で、大きなパワーを頂きました。改めて、輝く女性は私の憧れです。貴重な機会をありがとうございました。

工学部工学科4年 中西彩子

講演者の方にインタビューさせていただき記事を書いたり、当日の司会をしたりするのはすべて初めてのことで、とても勉強になりました。こうした「縦のつながり」を活かして尊敬する先輩方に直接お話を伺える機会を提供していただけたことに感謝いたします。

理学部生物学科4年 山口晴香

社会で活躍してこられた女性の方々に直接インタビューさせていただき、そのパワフルで素敵な姿に触れることで将来自分がどのように生きていきたいかを考えるきっかけとなりました。今後も先輩方の姿を胸に、日々自分の目標に向かって努力していきたいと決意を新たにすることができました。

経済学部経済学科3年 佐藤夢木

# シンポジウムを終えて

第一線で活躍されている先輩方からたくさんの刺激を頂きました。東大の女子学生の皆さんもスタッフとして運営に関わって頂き、先輩の経験を後輩へ伝える良い機会になったのではないかと感じました。

1999年工学部卒 中川登紀子

このシンポジウムを通して、男女共同参画の歴史に直に触れることができ、貴重な体験でした。ご多忙中ご登壇くださった瀬地山先生、多大なるご協力をいただいたパネリストの方々、ご協力いただきました方々に感謝いたします。

1998年文学部卒 小島有理

登壇してくださった方々のお話から浮かんできたのは、一人ひとりの足跡が、それぞれの場所から社会に影響を与えてきたということ。ひたむきに生きることが、より良い未来につながる様子をしっかりと見せつけてくださいました。

1998年教育学部大学院修了 宮下深帆

先輩方のお話を伺い、私も元気をいただきました。ご参加された方を含め、これからの時代を共に担う皆さまの今後のご活躍をお祈り申し上げます。

1996年経済学部卒 遠藤美穂子



# シンポジウムを終えて

シンポジウムを目指して疾駆する準備の皆様、そして様々な方面からの協力。日頃の地道な活動と熱意が、すばらしい講師の方々を迎えた男女共同参画シンポジウムの成功につながったことを長く記憶したいと思います。

1981年文学部卒 佐久間みかよ

先輩世代として伝えていきたいことが実際に若い世代の期待に沿うものなのか、どんな反応が得られるか不安もありましたが、しっかりとした手ごたえが感じられ、勇気や励ましを受けとってもらえたようでうれしく感じています。

1980年教養学部卒 三塚典子

シンポジウム当日は参加できなかったのですが、報告書のお手伝いをさせていただいたおかげで、一連の活動をしっかり体験したような気分になりました。お話はもちろんのこと、パネリストの先生方のカラフルな服装に、さつき会らしさを感じました。

1979年医学部卒 鳥居央子

学生の熱意が講師の先生方にも伝わって、充実した企画になったと思います。講師もさつき会にしかお願いできない、素晴らしい陣容で、もっと多くの方にご来場いただきたかったのですが、参加者の満足度は120%だったことは間違いありません。

1975年経済学部卒 長谷川峰子

70名を越える方々にご出席頂き、年齢、お仕事等が多彩なパネリストをお招きでき、大変有意義なシンポジウムになったと思います。男性の参加者としては、男子学生も含めて、20代、30代のお若い方々から、60代、70代の方、90歳近い大先輩にも出席頂きました。学生の参加者が30名弱と少し少なかったのが残念です。

1968年薬学部卒 小浪悠紀子

素晴らしいシンポジウムになりました。もっと多くの方に聞いていただきたかった。公開にして、東京銀杏会の会員の方々に参加していただいてよかったです。

1965年理学部卒 降旗千恵

# 来場者アンケートの紹介

＊開示を承諾された方のご回答のみを掲載

	所属	卒業年	性別	シンポジウムでよかった点	シンポジウムで改善したほうが良いところ	今後について	認知経路
1			男	4人の話がよく考えられていたこと	・後ろで赤ちゃんの声をしたこと・椅子が座りにくいこと・若い男性の参加者を増やすこと		友人
2	会社員		女	実際に道を切り開いてこられた第一線の皆様のキャリアのヒントを得ました	特にありません		友人
3	工学系研究科精密機械卒、通信業	1999	男	鮮度の良いトピックを含めた話。ワンピーススワンプースをつなぎ合わせるように全体的話を聞くと、よりよくわかる仕組みがある。大変参考になりました・ありがとうございました。	春風亭昇太の笑顔が増える話題もたくさんあるといいなあと思いました。	豊島区国際アートカルチャー特命大使、ドローンなどのICTと発展にもつながる通信業、2020を迎える都民としては建設業も面白いのではないかと思います。	さつき会
4	東大理11年	2020	男	女性が活躍する社会を作っていくためには、男としても、意欲的な女性の手助けをしていかなければならないと思った。私も、目前に現れたチャンスを常に掴んでいきたいと思う。			チラシ
5	法学部	2018	女	「女性は採用しない」などの差別的な発言が憚られなかったような時代から、逆境に負けずに、批判・中傷・人目も気にせず、強い信念を持って道を切り開いていった前向きで強い大先輩たちのお話を伺って、彼女たちの後ろに出来た道を私達後輩が続けて踏みしめていくことで、確かなものにしていきたいと強く思いました。	男の子の友達が、会場に入りにくかったと言っていたので、もっと男子学生が参加しやすいような工夫が必要だと思います。	今回は大先輩のお話を聞けて、私達よりも厳しい環境を突き進んでいったお話にとっても勇気をいただいたのですが、もっと学生に近い立場の若い先輩のお話も伺いたいです。	友人
6	東京大理学部	2017	女	それぞれの方が、経験されていたことをお聞きし、自分の人生を考えるきっかけになりました。			
7	財団役員	1975	女	それぞれのパネリストの経験と考え方が素晴らしくカチつけられた	こんなに有益かつ興味深い話が聞けるのに学生の来場が少ないこと		メール
8		2004	女	中野おかりさんの講演が最高でした	プレゼンのスライドをどこかで公開してほしい	企業で出世した人ではないタイプのお話が聞きたい フリーランスや主婦経験者	Facebook
9	会社員		女	中野さんのお話を伺いたく参加しました。仕事や職場環境のことで頭を抱えているが皆様のお話を伺いすっきり気持ちが晴れました。気持ちを切り替えて前を向いていけそうです。			友人
10	教養学部	2017	男	中野さんのお話でファッション額という言葉を知りました。私自身は理系の学生なので比較的伝統的な分野を学んでいてそこから出て自分自身の世界を作るような生き方にあこがれるものがありました。人間力、120パーセントの力で返すという生き方、努力したいと思います。			友人

# 来場者アンケートの紹介

11	明治大学国際日本学部	2018	女	講演も非常に良かったですが、パネルディスカッションの雰囲気がとてもよく楽しめました。中野先生がいつも通りで楽しかった。学生として得られたこととしてはパネリストの方が非常に強く素敵で大胆な考え方をもちもとのびのび生き抜くことが重要だと学ぶことができました。			Facebook
12	Dorest		女	パネリストの方々のバランスがとても素晴らしく多様な角度からお話を伺うことができた とても勉強になった	椅子が座りずらかった しいて言えば		友人
13	明治大学4年		女	性差にくじけずその道のバイオニアとして道を切り開いてきた皆様の飾らないまっすぐな生き方を拝聴できて大変貴重な機会となった。自分が困難にぶつかったときや人生の岐路に立ったとき今日のお話を思い出したい。			中野先生
14	東京大学大学院		女	多様な分野のバイオニアの方々のお話が聞けて大変興味深かった。	もっと大段的に宣伝をしてもっと多くの人に参加してほしいそんな素晴らしいシンポジウムでした。		Facebook 友人
15	大学院総合文化研究科広域科学専攻	2016(学士)	男	様々な道を進んできた人の話で、選択肢の多さとエネルギーの大切さを感じました。	もっと大きく広告してもよいのではないのでしょうか。	自称「好き放題やってきた」方	その他 父からの紹介
16			女	パネルディスカッションにおいて、様々な意見を聞くことで、自分の考えを深めることができた。		職場での女性の権利向上、家事・育児の男女平等	その他 講師の方からの紹介
17	さつき会	75工	女		プロジェクターの使い方→「本日のタイトル」「その時やっているプログラム」を表示した方がよい。ブルーバックを出しているのはみっともない。	男女共同参画の内容に、「子育て」より「介護」の方が世の中では進んでいないので、意識した方がよい。中野さんの話は、別に長時間聞いてみたい。大塚さんのように企業内で活躍している人をもっと探せるとよい。	さつき会HP
18	技術者	S38	男	女性の理念への覚悟が伺えたこと大変感銘をうけました。	大変内容がよくて、すばらしかった。何回も継続大切と思います。	色々な分野立場の方を、海外人を。	さつきMLや事務局からのメール
19			女	ちょうど進路を考えている時期にとってもタメになる話が聞けました。とてもよかったです。働くということの意味、ジェンダーについてよく考え			
20	通訳ガイド		女	失敗をステップにするということを知っていても50才をむかえて、恐れるようになってきていました。今日の皆さんのお話しをうかがい失敗したら誰かに頼ってプレゼント(お礼)をしながらも一度前に進んでいこうと思うことができました。ありがとうございました。			友人
21	日比谷高校2年		女	「前例がないことは幸運」、人を集めるには理念が必要	特にないです。		友人
22	工学部建	S47	男		ジェンダー格差が先進国で有りながら日本が100位以下という状況が理解できません。計算方法に間違いが有るのでは無いでしょうか。女性の幸せ度では日本社会は高位に有るのでは無いのでしょうか。	ジェンダー格差の実態を明らかにすべきと思います。本学卒業生のような優れた女性にとってはあってはならない事です。	その他 東京銀杏会幹事より



女性の元大臣経験者  
とも話せる！

東大卒のバイオニア  
女性の話が聞ける！

雷女(そらじょ)や  
ジャーナリスト  
も参加！

東大 OGと学生による  
男女共同参画シンポジウム  
「君の後ろに道はできた」

日時： 2016年6月11日(土)  
13:30～16:00 (開場13:00)

場所：東大駒場キャンパス  
21KOMCEE内ホール

事前申込制、入場無料、途中参加・退出可  
(席に余裕があれば当日参加も可能)

お申込みとお問合せ さつき会ホームページからお申込みください。  
<http://www.satsuki-kai.net/>



主催：さつき会 (東大女子卒業生・女子学生同窓会)

後援：東京大学男女共同参画室

東大女子  
入学70年

さつき会  
55周年

東大男女  
共同参画室  
後援

# ～逆境に打ち勝ち、 リーダーとして道を切り開くには～

## 東大駒場の大人気講義、瀬地山角先生のジェンダー論からのスピノフ講演



遠山さん(前列中央)と主催の在校生達

学生の皆さん、こんにちは。東大女子同窓会さつき会です。突然ですが、皆さんにいくつか必ず、逆境が訪れます。ときに、自ら招き、ときに、理不尽に降りかかり、それでも現状を打破しなければなりません。今回は、常に「女性初」と言われながら、各分野でパイオニアとなって道を切り開き、その道の第一人者となった、「スーパーな」先輩方を4名お招きしています。

彼女達は、なぜ逆境に打ち勝ったのか。

それは、強靱なメンタルか、いや自己鍛錬か、

はたまた、数智と機知にとんだセンス所以なのか。

自分以外アウェイ、そんなときのためにも、人生のヒントが必ずここにあります。

今年には東大に女子学生が入学して70年。そしてさつき会設立55周年。実はこのシンポジウムは、駒場の瀬地山角先生の大人気講義ジェンダー論の授業から発案され、在学生有志が企画し、東京大学男女共同参画室の後援を得て企画しました。男女問わず幅広いご参加をお待ちしております。

### パネリストプロフィール

#### 遠山敦子様(1962年法学部卒)

昭和37年東京大学法学部卒業、同年4月に文部省に入省。ついに女性初のタイトルの下に、中学校課長など4課長を務め、その後、文化部長、文化庁次長、教育助成局長、高等教育局長を経て、文化庁長官を歴任。平成8年には駐トルコ共和国大使、そして帰国後、平成12年に国立西洋美術館館長就任。平成13年4月からは小泉内閣で民間から文部科学大臣として入閣。平成17年4月より、財団法人新国立劇場運営財団理事長に就任、平成23年3月末退任。財団法人松下教育研究財団(現公益財団法人パナソニック教育財団)理事長として、「こころを育む総合フォーラム」を立ち上げ、平成19年1月には提言を発表。現在、公益財団法人トヨタ財団理事長、平成19年より財団法人日本いけばな芸術協会会長に就任。

#### 高橋真理子様(1979年理学部卒)

朝日新聞記者。1979年朝日新聞入社、「科学朝日」編集部長や論説委員(科学技術、医療担当)、科学部次長、科学エディター(部長)などを務める。著書に『最新 子宮頸がん予防——ワクチンと検診の正しい受け方』、共著書に『村山さん、宇宙はどこまでわかったんですか?』『独創技術たちの奇蹟』『生かされた教訓—巨大地震が原発を襲った』など、試論に『ノーベル賞を獲った男』(共訳)、『量子力学の基本原理解 なぜ常識と相容れないのか』。



#### 大塚聡子様(1985年工学部卒)

NEC 宇宙システム事業部 プロジェクト推進部 エキスパートエンジニア  
「宇宙を人が行く場所にはない」との夢の下、宇宙空間で動くロボットアームの開発に携わって約30年。「ロボットアームの母」と称され、国際宇宙ステーションの「きぼう」日本実験棟などで採用されている日本独自のアームの設計開発、宇宙飛行士の訓練に注力し、日本とくに世界の宇宙開発に貢献を果たした。また、宇宙飛行士の山崎直子さんと宇宙航空男女参画活動「宙女(そらじょ)」にも注力。



#### 中野香織様(1987年教養学部卒)

エッセイスト/服飾史家/明治大学国際日本学部特任教授  
過去2000年の男女ファッション史から最新モード事情まで研究・執筆・レクチャーをおこなっている。東京大学大学院博士課程単位取得満期退学、ケンブリッジ大学客員研究員を経て文筆業、2008年より明治大学国際日本学部特任教授。専門はファッション文化史、ダンディズム史、イギリス文化史。著書『モードとエロスと資本』(集英社新書)、『ダンディズムの系譜 男が憧れた男たち』(新潮選書)、『愛されるモード』(中央公論新社)ほか多数。監訳『シネマ、革命の秘密』(ディスカヴァー・トゥエンティワン)ほか翻訳も手掛ける。『英和ファッション用語辞典』(研究社)監修。新聞・雑誌・ウェブでの連載記事多数。新刊『紳士の名品50』(小学館)5月20日発売。

